

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 110 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 令和元年 12 月 14 日 (土)  
午後 2 時 40 分～午後 6 時  
会 場 コープシティ・花園 4 階  
ガレソホール

## I. 一 般 演 題

 1 新潟市における成長曲線を用いた学校健診の  
現状～5 群 (極端な低身長) の精査結果～

廣嶋 省太・泉田 侑恵\*・澤野堅太郎  
入月 浩美・小川 洋平・阿部 裕樹\*  
長崎 啓祐

新潟大学医歯学総合病院 小児科  
新潟市民病院 小児科\*

【背景】平成 28 年 4 月より学校保健安全法が変更され、学校健診において成長曲線の積極的な活用が行われている。新潟市では、学校保健成長曲線検討委員会を立ち上げ、検討を行っている。今年度より第 5 群 (−2.5SD 以下の極端な低身長) で精査が必要な場合には、専門医のいる 2 病院を受診するように変更した。

【対象と方法】令和元年 4 月～9 月に学校健診で 5 群に該当し、新潟市民病院および新潟大学医歯学総合病院を受診した患者の最終診断を調査した。

【結果】合計 41 名 (男児 18 名)、受診時年齢と肥満度の中央値 (範囲) は、11 (6-14) 歳、−1.4 (−25.2-32.5) % であった。最終診断は、特発性低身長が 20 人 (思春期遅発傾向 6 人、栄養障害疑い 3 人含む)、体質性思春期遅発症 5 人、家族性低身長 5 人、栄養障害 5 人、ウィリアムズ症候群 1 人などであった。

【考察・結語】中学生以降は、思春期遅発症に関連した低身長が多い。全年代で、栄養障害による低身長が 30% を占め、適切な栄養指導が重要であることを再認識した。

## 2 先天性甲状腺機能低下症に下垂体機能低下症を合併し診断に苦慮した女児例

阿部 裕樹・泉田 侑恵・塚野 真也

新潟市民病院 小児科

原発性と診断した先天性甲状腺機能低下症の女児で、視床下部障害が明らかとなり、中枢性との鑑別に苦慮した症例を経験した。

症例は現在 13 歳の女児。free T4<0.10ng/dL、TSH 131.95μIU/mL、Tg ≥ 800ng/mL、エコーで正所性にやや腫大した甲状腺を認め、ホルモン合成障害と考えた。11 歳頃から成長率が低下し、成長ホルモン完全欠損と診断。TRH 負荷では TSH は過大反応で、わずかだが遷延傾向を示した。MRI で正常下垂体の描出がなく、視床下部障害による下垂体ホルモン分泌不全と診断した。診断時の TSH を新潟県のマススクリーニングデータと比較したところ、free T4 に比して TSH は低値であり、診断時から中枢性の要素を伴っていた可能性があると考えた。診断時に free T4 に対する TSH に注目することで、視床下部性甲状腺機能低下症の合併を想起できた可能性がある。

## 3 抗体陰性バセドウ病に合併した類もやもや病の 1 例

滝澤 祥子・今西 明・安楽 匠  
川田 亮・佐藤 隆明・金子 正儀  
松林 泰弘・岩永みどり・山田 貴穂  
藤原 和哉・曾根 博仁

新潟大学医歯学総合病院  
血液・内分泌・代謝内科

症例は 52 歳、女性。X 年 4 月 1 日から労作時の呼吸困難が出現。急性心不全のため、4 月 5 日に入院。軽度の甲状腺機能亢進症を認めた。甲状腺腫大や圧痛なし。エコー：結節性病変や血流増加なし。甲状腺自己抗体：全て陰性。Tc シンチ：TSH 抑制下でびまん性に集積あり。摂取率上昇なし。無痛性甲状腺炎とバセドウ病の鑑別に苦慮したが、無治療で経過観察した。6 月中旬から再度甲状腺機能が亢進した。経過から抗体陰性バセドウ病と診断。MMI 15mg と KI 150mg で甲状腺